



福島をくり返さない!! ふるさとは原発を許さない!!

伊方原発3号機は 再稼働させず、このまま廃炉へ 原発ゼロ CO2ゼロを実現する未来へ



伊方原発

伊方原発3号機 10月12日に再稼働!?

伊方原発3号機は、2019年12月の定期検査以来ずっと止まっています。裁判所の運転停止の決定や、設置が義務付けられていた特定重大事故等対処施設（特重施設）の建設の遅れがあったからです。

ところが、今年3月の広島高裁の運転を認める決定を受けて、四国電力は、特重施設は10月5日に完成予定であり、10月12日にも原子炉を起動させる予定だと発表しました。

原発が止まっても電力不足のない四国で、原発を稼働させる必要性はありません。伊方原発には、敷地前面の長大な活断層による地震の危険性、細長い佐田岬半島の地形特有の避難の困難さがあります。再稼働が強行されれば、住民は事故の危険におびえながら暮らさなければなりません。原発が生み出す核のごみ（高レベル放射性廃棄物）は、数万年も隔離する必要がありますが、その方法も場所も決まっています。こんな「負の遺産」を後世に遺すことは、許されることではありません。

1年半停止していた3号機は、熱量も放射線量も低減しています。再稼働させずこのまま廃炉にすべきです。

福島をくり返さない!

原発はひとたび深刻な事故を起こせば、取り返しのつかない被害をもたらします。東京電力福島第一原発事故が発生してから10年が過ぎましたが、事故は終わっていません。今も数万人が避難生活を強いられています。

福島事故を経験した私たちが未来のためにできることは、原発をなくして、事故を二度と繰り返さないことです。

四国電力に原発を動かす資格がありますか?

原発は事故の危険と常に隣り合わせです。昨年、四国電力は定期点検中に「制御棒を誤って引き抜く」、「核燃料をプールのラックに乗り上げる」、「外部電源の43分間の停止」という重大なトラブルを相次いで起こしました。どれも一歩間違えば過酷事故につながるおそれのものでした。

先日、伊方原発で2017年から去年にかけて5回にわたり、重大事故の発生に対応するための宿直勤務中に無断外出をしていた社員がいたことが発覚しました。保安規定で定められている人数を満たさない規定違反の状態だったのです。危険な核を扱っているという自覚や責任、緊張感が欠けています。あなたは四国電力に危険な原発の運転を任せられることができますか。

原発は温暖化対策の切り札!

地球温暖化対策として、発電時に温室効果ガスの二酸化炭素（CO₂）を出さない原発は温暖化対策の「切り札」だと、国や原子力業界はアピールに躍起です。たしかに原発は、熱を出す核反応の段階ではCO₂を出しません。けれど、ウランの採掘、精製、加工時ではCO₂が出ます。発電所設備の建設、解体、使用済み核燃料の処理・処分などの段階で、膨大なCO₂を出します。原発から出る「温排水」は、海水温を上昇させ、排水口付近の生態系に影響を与えます。さらに、福島事故以降、安全対策の強化を求められた原発は、いちばん高い発電の手段になっています。

原発に頼ることなく、省エネの促進と自然エネルギーの拡大で、二酸化炭素排出実質ゼロを達成することを求めます。

伊方原発をとめる会 〒791-8015 松山市中央2丁目23-1、201号

TEL 089-948-9990 FAX 089-948-9991

HP = <http://www.ikata-tomeru.jp> メール ikata-tomeru@nifty.com

《原発問題に関心のある方はご連絡ください。資料をお送りします。》